

中学部 第1, 3学年〇組 国語科 学習指導案

日 時 〇月〇日 (〇) 〇校時

場 所 自立活動室II

指導者 T1〇〇〇〇 T2〇〇〇〇 他3名

1 題材名 物語の世界へ③『かみなり』

2 題材の目標

- (1) 見聞きしたり、身体を動かしたりしながら、言葉のもつ音やリズムに触れる。[知]
- (2) 場面の様子を味わいながら物語を聞き、好きな場面を伝えたり、感じたことを表したりする。[思]
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、聞いたり伝えたりしようとする。[学]

3 生徒と題材

(1) 生徒について

1年生4名、3年生1名の計5名からなる自立活動を主として学習するグループである。視覚、聴覚に障害がある生徒が1名、医療的ケアを要する生徒が2名、てんかん発作への配慮が必要な生徒が3名いる。

コミュニケーション面では、身近な教師からの話し掛けに表情や発声、身体の動き等で応えたり、快・不快を表情で表したりすることができる。これまでの学習では、物語の読み聞かせの中でペープサートを注視・追視したり、提示されたものに興味をもち自分から手を伸ばして触れようとしたりする姿が見られている。視覚や聴覚、触覚等を活用しながら繰り返し活動することで、言葉のリズムや音を楽しんだり、感じたことを表現したりする姿が増えてきた。また、少しずつ物語の場面展開に見通しをもち、好きな場面で笑顔になったり、小道具に触れたい等の気持ちを伝えたりするようになってきた。

(2) 題材について

本題材は、主に小学部1段階 C 読むこと エ「絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。」と関連付けて目標・内容を設定している。授業は、年間を通して「名作アルバム」「言葉あつめ」「物語の世界へ」の3つの学習活動で構成している。

「名作アルバム」は、文学作品の音読を聞く学習活動である。本題材で取り上げる「枕草子」（清少納言）は、古文特有の言葉遣いやリズムに触れることができる。

「言葉あつめ」は、視覚、聴覚、触覚に働き掛けたり、実際に身体を動かしたりする活動と言葉を結び付ける学習活動である。本題材では、日常生活でよく使う「曲げる、伸ばす」という言葉を取り上げ、実際に手足の曲げ伸ばしを行い、固有覚に働き掛けることを繰り返すことで、動きと言葉を結び付けることができるのではないかと考える。『かみなり』の中にもこの言葉が出てきているので、体験したことを次のコーナーで生かすことができる。

「物語の世界へ」で取り上げる『かみなり』（文：内田麟太郎）は、狂言の演目「神鳴」をアレンジした物語である。狂言らしい独特な言い回しや軽快なテンポで進む登場人物の掛け合いを楽しむことができる。絵本の内容をもとに、生徒の好きな歌や感覚への刺激等を活用しながら繰り返しの場面展開を作ることで、次の場面を予測したり、楽しみにしたりすることにつながるかと考える。また、登場人物とのやり取りを視覚、聴覚、触覚等に働き掛けながら行うことで、リズムのある言葉ややり取りの楽しさを感じたり、気持ちを表したりする姿が引き出せると考え、本題材を設定した。

(3) 指導について

- ・登場人物の掛け合いや言葉のリズムを楽しめるように、教師が役を演じながら展開する。
- ・前に出ている教師に注目できるように、一人一人の視覚や聴覚の捉え方や顔の向き等に配慮した座席配置にする。
- ・場面転換に気付き、見通しをもてるように、暗転や光、音を活用し、毎回同じ順番で刺激を提示する。
- ・物語への興味を持続させたり、場面転換に気付いたりできるように、生徒が好きな歌と楽器を使用する。
- ・好きな場面を見付け、気持ちを表出できるように、視覚、聴覚、触覚等に働き掛けながら登場人物とやり取りをする場面を設定する。
- ・やってみたいという気持ちを高められるように、軽快なテンポで登場人物の掛け合いを演じた後に問い掛け、表出を待つ。表情や声、身体の動き等の表出が見られたら即時評価する。

4 指導計画（総時数 16時間）

小題材名・学習内容	時数	小題材の目標
1 「かみなり」の物語を知ろう	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「かみなり」や「枕草子」の言葉のもつ音やリズムに触れ、読み聞かせに注目する。【知】</li> <li>・「かみなり」を見聞きし、好きな場面を見付けたり、気持ちを表したりする。【思】 【学】</li> </ul>
2 「かみなり」の物語を味わおう	13 本時 (4/13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「曲げる、伸ばす」という教師の話し掛けに応じて、言葉と動きを結び付ける。【知】</li> <li>・物語を見聞きし、好きな場面を伝えたり、感じたことを表したりする。【思】 【学】</li> <li>・やりたい気持ちを伝え、教師と一緒に発声や身体の動きで物語の一部分を表現する。【思】 【学】</li> </ul>

5 本時の計画（総時数16時中の7時）

(1) 本時の目標（評価規準）

- ・自分の好きな場面になったことが分かり、楽しみにしたり、感じたことを表したりする。【思】 【学】

(2) 個別の実態・目標・手立て

生徒名	国語に関する実態 <学習到達度チェックリストより>	本時の目標 (評価基準)	手立て MSゴシック：自立活動シートより
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;受け止め・対応：スコア4&gt;</li> <li>&lt;表現・要求：スコア8&gt;</li> <li>・ペーパーサートや小道具に興味をもち、注視、追視する。照明の変化に気付き、周りを見渡して光や音に注目する。</li> <li>・好きな場面でタイミングよく声を出すことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黄色のかみなりの場面でT2の働き掛けに応じて声を出してお湯に触れたい気持ちを表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見やすい位置にお湯の入った洗面器を提示し、お湯に注意が向いたことを確認してから問い掛ける。</li> <li>・生徒の動きに合わせながら、リズムよくせりふの掛け合いをする。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;受け止め・対応：スコア8&gt;</li> <li>&lt;表現・要求：スコア8&gt;</li> <li>・言葉による簡単な要求に手を上げたり、声を出したりして応える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「エイエイ、ヤットナ」のせりふのリズムに合わせて手を動かして表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見やすい位置に木槌やマッサージ器などの小道具を提示する。</li> <li>・興味を持続できるように、声の強弱やリズムに変化を</li> </ul>

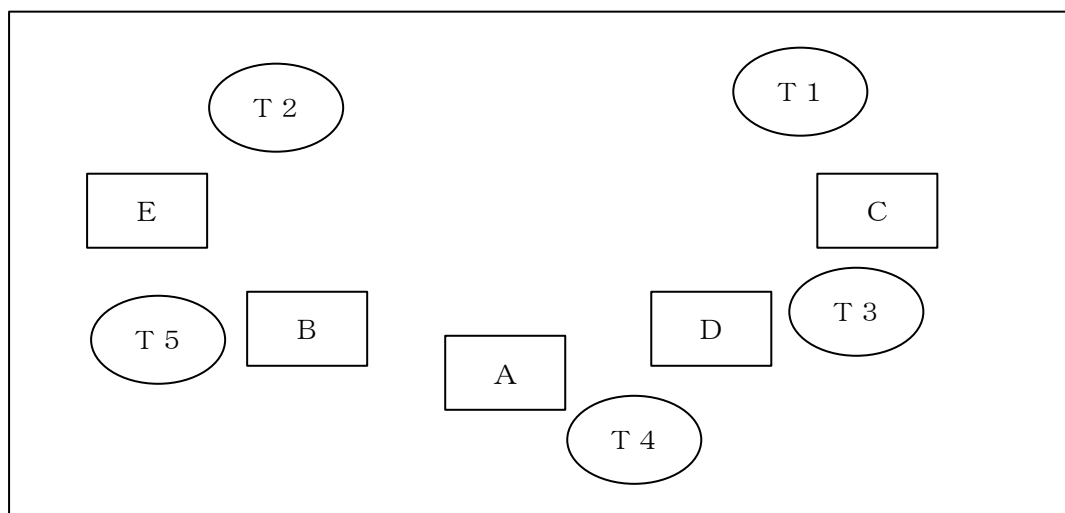
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌やせりふのリズムに合わせて、上肢を動かす。</li> <li>・目の前に好きな小道具を提示すると、手を伸ばして自分の方へ引き寄せようとする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>つけて話し掛ける。</li> <li>・生徒の動きのリズムに合わせて間をとりながらせりふを言う。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>＜受け止め・対応：スコア2＞</li> <li>＜表現・要求：スコア2＞</li> <li>・音や人の声がすると、動きを止めて注意を向けることがある。</li> <li>・働き掛けに対して声を出して笑ったり、口笛を吹いたりして応えることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌の始まりに気付き、楽しい気持ちを笑顔や手の動きで表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌の前奏で、スレイベルを耳元で鳴らす。</li> <li>・身体や手の平をマッサージするなどし、覚醒を促す。</li> <li>・物語の中に、繰り返し歌の場面を設定する。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>＜受け止め・対応：スコア8＞</li> <li>＜表現・要求：スコア6＞</li> <li>・言葉を掛けると声のする方を見る。</li> <li>・目の前に小道具を提示すると手を伸ばして触ったり、指先で引き寄せたりする。</li> <li>・教師の働き掛けに対して笑顔や発声で応える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アいた、アいた」のせりふを聞いて、笑顔や発声で楽しい気持ちを表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表出が見られるように、間をおいてせりふを言う。</li> <li>・何をすることが分かるように針やマッサージ器などを目の前に提示する。</li> <li>・頭部を保持できるように、座位保持装置の角度やタオル等で姿勢を調整する。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>＜受け止め・対応：スコア8＞</li> <li>＜表現・要求：スコア6＞</li> <li>・「こっちだよ」「これ持って」の言葉掛けにこちらを見たり、小道具に手を伸ばそうとしたりする。</li> <li>・好きな場面がきたことが分かり、期待して求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T2の働き掛けに応じて、笑顔や視線で期待感ややりたい気持ちを表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体を緩めてかみなりとのやり取りができるように、事前に「緩めるよ」「前を向くよ」等の言葉掛けをする。</li> <li>・見やすさや触れやすさに配慮した位置に小道具を提示して問い掛ける。</li> </ul>

### (3) 学習過程

時間 (分)	学 習 活 動	指導上の留意点 *MSゴシック：自立活動シートより	準備物
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>【めあて】好きな場面で、楽しみなことや感じたことを伝えよう。</p> <p>好きなことば・うた <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">たのしいきもち</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">やりたいきもち</span></p> </div>		めあてカード
9:55 (7)	1 名作アルバム ・「枕草子」の音読を聞く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の響きやリズム、作品の世界観を楽しめるように、生徒の反応を見ながら抑揚やリズムに変化を付けて読む。(T2)</li> </ul>	学習カード
10:02 (10)	2 言葉あつめ ・「曲げる」「伸ばす」の言葉と動きを結び付ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉と動きを結び付けられるように、T1は前で生徒の動きを見ながら演示する。T2以下は、生徒の身体の動きを補助する。</li> <li>・言葉に注目し、意欲的に身体を動かせるように、主体的な動きが見られたら、称賛したり、友達に</li> </ul>	

10:12 (30)	<p>3 物語の世界へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語「かみなり」を見聞きする。</li> </ul> <p>&lt;登場人物と小道具&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 赤のかみなり (針と木槌)</li> <li>② 青のかみなり (電動マッサージ器)</li> <li>③ 黄色のかみなり (入浴剤入りのお湯)</li> </ol>	<p>紹介したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の掛け合いや言葉のリズムを楽しめるように、T 2～T 5は医者とかみなり（3人）の役を演じ、T 1はナレーションと音響を担当する。狂言らしい言葉の言い回しやテンポを意識して話し掛ける。</li> <li>・場面転換に気付き、次の場面を予測できるように、生徒の様子を見て間を取りながら暗転→光→音→明転の順で場面転換する。かみなり役のT 3以下は、登場した際に十分間をとってからせりふを言う。Cには身体に触れながら話し掛ける。</li> <li>・物語への興味を持続できるように、スレイベルを鳴らしながら全員で歌う場면을繰り返し設定する。</li> <li>・Cが歌や音に気付いて楽しめるように、T 1はスレイベルやサンダーチューブを耳元で鳴らす。</li> <li>・登場人物とのやり取りが楽しめるように、掛け合いを演じた後にT 2は「一緒にやってみたいものはおらぬか?」と問い掛ける。T 1は必要に応じて生徒のそばに行き、即時評価する。</li> <li>・自分から表情や身体の動きで気持ちを表せるように一人一人の見やすさや触れやすさに配慮した位置に教材を提示する。</li> </ul>	<p>衣装 ライト サンダー チューブ 針 木槌 スレイベル 電動マッ サージ器 お湯 入浴剤 洗面器 ひしゃく タオル 太鼓 ばち</p>
10:42 (3)	<p>4 学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頑張りやを友達と共有できるように、T 1は生徒が気持ちを表した場面を紹介し、全員で称賛する。</li> </ul>	

(4) 配置図



(5) 評価の観点

- <生徒> \*個別の目標（評価基準）を基に評価する。
- <教師> 生徒が好きな場面や感じたことを表すための話し掛けや気持ちの読み取り，教材教具などの支援は適切であったか。